

令和5年度（第15期第8回）小平市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

1 日時

令和5年12月15日（金） 午後2時～午後4時

2 場所

小平市リサイクルセンター 2F 多目的ルーム

3 出席者

○小平市廃棄物減量等推進審議会委員 16名

山谷修作会長、渡辺浩平副会長、青野敬吾委員、浅野薫委員、出雲崎暁子委員、伊東恵美委員、太田佳子委員、岸野好江委員、木村源一委員、先山厚子委員、下條隆久委員、武田直子委員、丹治由紀子委員、茂木勉委員、林周子委員、吉浦高志委員
（欠席）内藤新司委員、山倉尚委員

○事務局 5名

環境部長、資源循環課長、資源循環課推進担当係長、資源循環課推進担当2名

4 傍聴者

0名

5 議事

小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について（答申）（案）

6 配付資料

小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について（答申）（案）	資料1
報告事項まとめ	資料2
こだいら環境フェスティバル実施報告	資料2-1
ダンボールコンポスト講習会実施報告	資料2-2
小平市市民まつり実施報告	資料2-3
リサイクルきゃらばん実施報告	資料2-4
廃食油から作るせっけん講習会実施報告	資料2-5
小平市産業まつり出展報告	資料2-6
三多摩は一つなり交流事業バスツアー実施報告	資料2-7
こだいら食べきり協力店制度の開始	資料2-8
株式会社マーケットエンタープライズ(おいくら)との協定締結	資料2-9
株式会社セブン&アイ・フードシステムズ(デニーズ)との協定締結	資料2-10

7 内容

<議事>

- ・小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について（答申）（案）

（事務局）

資料1について、答申(案)の内容を説明。

（山谷会長）

基本計画第5章における、重点施策についてこれまで審議を行ってきた。審議の中で出た意見を事務局側で答申(案)としてまとめた。まずは基本方針1について、委員の皆様から意見があれば伺いたい。

（渡辺副会長）

答申(案)における、2 提言と3 検討事項の整合性、基本計画中の重点施策との整合性も考える必要がある。単に分別だけでなく、3Rの意識を向上させ行動変容に結び付ける目的で、提言に「環境教育」という文言を入れたい。また、基本計画では拡大生産者責任・協定団体との連携強化が重点施策になっているので、店頭回収など事業所での取り組みも進めてもらうことを考えると、提言に「拡大生産者責任」という文言も入れたい。

（山谷会長）

「環境教育」、「拡大生産者責任」は言葉としてどちらも重要であるため、どちらも提言に入れる方向で修正を加えたい。

（吉浦委員）

最近、新聞販売店が経費の関係で回収袋を紙でなくビニールにしている。SDGsの観点からも、紙にすべきだという内容は載せられるのか。新聞を古紙として処理する際、ビニールは不適物として扱うため、そういったものが増えていくのは困っている。

（山谷会長）

新聞業界ではプラスチックが多用されているという事実がある。業界の問題であると思うので、広く捉えれば拡大生産者責任と言えるのではないだろうか。

（渡辺副会長）

基本計画中にも「事業者との連携強化」という記載があるので、答申に入れる余地はあると思う。

（山谷会長）

基本方針2について、皆様の意見を伺いたい。

（渡辺副会長）

現状の提言だと、食品ロス削減の推進にはフードドライブとてまえどり運動しか無い状態である。これまでの議事でも、啓発事業など様々な取り組みが提案されているので、そういったものも入れるのが良いと考える。「食品ロス削減に効果的な取り組みを検討し実行していく」というような文言が良いのではないだろうか。食品ロスには様々な取り組みが存在し、決定打

が見出せていない現状があるため、どういった取り組みが小平市で有効か模索していかなければならない点もあると考える。

(山谷会長)

食品ロス削減に関する幅広い取り組みを盛り込むという方向で見直しを行う。

(渡辺副会長)

食物資源循環事業も生ごみの削減には有効と考えるので、どこかに入れたい。

(山谷会長)

これまでの議事でも意見が出ていたと思うので、食物資源循環事業の強化・拡充を入れ込むことは検討してみたい。

(茂木委員)

スーパーからの食品ロスだと、賞味期限が切れたものや落としてしまって販売できないもの等がある。一番多いのは、キャベツ等の野菜で外側の皮をむいた野菜くずが多く、こうしたものは、バイオ発電として食品リサイクルを進めている。

(山谷会長)

食品リサイクルをまだ行っていないスーパーなども存在している。今年度より事業系の手数料を値上げしており、事業系ごみの焼却施設への搬入を減らす観点からも、食品リサイクル施設の搬入への推進について、余地があるようであれば記載を検討しても良いのではないかと。

(渡辺副会長)

スーパーの役割としては、消費者に食品ロスを生じさせないような食材の使い方についての情報発信をしたり、使いやすいサイズで食材を売るなどがあり、これらは食品ロスの削減に役立っていると思う。小平市の特色を出せるものとして、食べきり協力店やエコショップ制度などについても、記載しても良いのではないだろうか。

(山谷会長)

食のリユースという観点からのフードドライブだと、賞味期限が1・2ヶ月先のものが対象となるため、行政にとってはハードルが高いものになると感じる。飼料化・バイオ化している施設は多くあるため、事業系の食品リサイクルのルートを太くしていくことは重要である。

(山谷会長)

基本方針3について、皆様の意見を伺いたい。

(青野委員)

リチウムイオン電池などの充電式電池について、様々な製品で使用されているが、取り出すことができないものが多い。そうした製品については、メーカー側がしっかりと表示しなければならないと思う。

(山谷会長)

基本方針4の意見として賜る。

(渡辺副会長)

既存の分別を徹底し、リサイクルを推進する余地はまだあると思う。一方、基本計画の中にも、「新たな資源化品目について研究」という文言があるので、品目拡大の見込みがあるようであれば、答申に入れても良いのではないだろうか。

(浅野委員)

「雑がみ保管袋」を市役所で配布してる市があり、市民に浸透しているようである。今回、答申(案)に雑がみ袋の配布が採択されなかったのは、コスト面・効果面どのような理由だったのか。

(山谷会長)

雑がみ袋の配布は、雑がみ自体の回収率が低い自治体で効果を発揮していると思う。雑がみ袋の全戸配布は、雑がみが資源であるという認知度が高まるという効果と、実際に雑がみを排出するという行動につながるという効果が期待できる。分別意識を持っていない人にも訴求するという意味において、全戸配布は意味があるものである。燃やすごみの中には紙類が多く含まれているので、雑がみを資源として回収できればごみを減らすことができる。

したがって、答申においても、雑がみの分別回収を促進するために雑がみ袋(回収袋・保管袋)の全戸配布の実施を一つの項目として記載した方が良いのではないかと。

(吉浦委員)

以前の審議会でも、配布でなく皆で作成しましょうという結論になったと記憶している。

(先山委員)

燃やすごみの中にも、本来雑がみとして資源になるものもあるため、こういったものが雑がみになるかという広報が必要だと感じる。小平市では、既に雑がみ袋の作り方を市民に展開しているので、あえてこれから全戸配布するよりは、雑がみになるものの広報に力を入れた方が良いと感じる。

(山谷会長)

雑がみの回収については、様々な手法がある。市としては、有効なものを事業として実施していくのが良い。

(先山委員)

- ・プラスチック製容器包装の排出時の汚れの程度について実物を持参して説明。
- ・生ごみ排出時のにおいを抑える方法について説明。

(渡辺副会長)

生ごみは乾燥させた方が水分が少なくなるので、焼却する際の効率が上がる。生ごみの水切りは非常に良いことである。

(山谷会長)

基本方針4について、皆様の意見を伺いたい。

(渡辺副会長)

リチウムイオン電池については、市だけで解決するのは難しいものであると考えられるので、拡大生産者責任として製造者側でしっかりと表示してもらう必要がある。充電式電池が入っている製品については、小平市ではどのような分別になるのか。

(事務局)

充電式電池を外すことができれば、電池だけを公共施設に設置している専用の回収ボックスに入れていただいている。なお、外れないものは同じく公共施設に設置してある小型家電回収ボックスに入れていただいている。掃除機などボックスに入らないものは、粗大ごみとしてお出しいただいている。

(渡辺副会長)

充電式電池内蔵の製品については、拠点に持っていかなければならないことが多く、自宅から出せる燃やさないごみとして出してしまう人がいるのではないかと思う。半年に一回など、充電式電池が取り外せない製品の戸別収集を行うことも手段のひとつではないだろうか。

他の市では水銀が含有されている製品も問題になることがあるが、小平市ではどうか。

(事務局)

小平市では、「有害性資源」として蛍光灯や体温計などの水銀含有製品を収集しているので、問題になることはない。

(山谷会長)

答申(案)の3で示された検討事項については、それぞれの基本方針間で共通している項目もある。

基本方針3の「不法投棄防止の見回りなどクリーンメイトとの協働」は、協働という意味では基本方針1、不法投棄防止という意味では基本方針4にもそれぞれ関連している。また、「定期的な展開検査の実施と結果の報告」についても、基本方針4と関連している。

基本方針4の「ごみ分別アプリのダウンロード数を増やすための広報」については基本方針3、「市報でのごみ特集号の発行」・「市内小売店への3Rポスターの掲示」は基本方針2にも関連していると感じる。

(青野委員)

基本方針4の「適正処理」という言葉が、あいまいで分かりにくい。もう少し分かりやすい表記があれば良いと感じる。

(渡辺副会長)

基本計画の文言に「適正処理」とあるので、この言葉を使用している。

(浅野委員)

答申がホームページで公開された際、3Rという言葉を知らない人もいると思うので、どこかで説明を入れた方が良いと思う。

(山谷会長)

答申の文中に説明を入れることとする。

(武田委員)

基本方針3において、「クリーンメイトとの協働」があるが、前回の議事でクリーンメイトの方より、不法投棄の監視や排出指導は難しいとの意見があった記憶がある。このままで大丈夫か。

(太田委員)

クリーンメイトには様々な人がおり、中には適切に指導できる方もいるので、削除しなくても良い。クリーンメイトの他の活動として、イベントでアンケートを取ったり、広報誌を作ったり活動しているので、協働という言葉は入れてかまわない。

(渡辺副会長)

検討事項として、クリーンメイトが行っている他の活動も入れても良いと感じる。

(事務局)

クリーンメイトの方には、様々なかたちで協力をいただいている。検討事項の表現については、変更を行う。

(山谷会長)

協働という意味で、基本方針1に移動させた方がよさそう。

他に意見が無いようであれば、皆様から良い意見をたくさんいただいたので、引き続き、意見をもとに答申(案)をブラッシュアップしていく。

<報告>

(事務局)

環境フェスティバル、ダンボールコンポスト講習会、市民まつり、リサイクルきゃらばん、廃油から作るせっけん講習会、産業まつり、三多摩は一つなり交流事業バスツアー、食べきり協力店制度、おいくら・デニーズとの協定について報告。

(渡辺副会長)

- ・食べきり協力店については、今のところ何店舗くらいあるのか。また、取組内容は多いのか。
- ・小平市内において、フードシェアリングアプリを利用している店舗はあるのか。
- ・ペットボトル回収機の実績はどのくらいなのか。

(事務局)

- ・食べきり協力店は、12月1日現在で12店舗。取組内容としては、持ち帰りを実施している店舗が多い。
- ・フードシェアリングアプリに関しては、導入経費が必要になるようなので、費用対効果を見ながら検討していきたい。
- ・ペットボトルの回収量については、設置者側でも自治体ごとの量を公表していないが、グループ全体で昨年度は4億7千万本ほど回収しているようである。全国の設置台数が3千台ほどのようなので、回収量は1台あたり約10万本以上になる見込みだが、設置場所には大型店舗もあるので、詳細は不明。

(先山委員)

使用済ハンガーを回収している店舗の紹介などはホームページで行っているか。

(事務局)

ホームページやパンフレットでは公表していない。今後も恒常的に続けていただけるようであれば、検討したい。

(先山委員)

協力店としての認定なども検討してほしい。

(事務局)

エコショップの認定基準としてハンガーの回収はないので、今後の他の店舗の動向を見ながら検討していきたい。